

生かされている理由(ルカ 2:28-38)

自分がなぜ生まれてきたのか、なぜ自分はいま生きているのかに対して正しい答えが得られなければ、その人がいくらもがいて頑張っても、例成功成功を取めたとしても、それは結果的にむなしいことになってしまいます。特にクリスチャンの私たちは、なぜ自分は生まれてきたのか、なぜいま生かされているのかに対して聖書を通して正確な答えを得ることが何よりも優先すべき信仰の内容です。今日の聖書の箇所を通してその答えをひとりひとりが正確に握る幸いなときになることを祈りたいと思います。今日の聖書を見ますと、イエス様が生まれて割礼を受けるような時期になったときに神殿に上りました。そこにだいぶ年を取って、自分でもうこれぐらいでいいのではないか、そろそろ天に召されて充分でないのかと思うくらいの人がありました。その預言者シメオンという人が、マリアに抱かれてそこにやってきた幼子イエス様を見て驚いて「神様。もうこれから安らかに召されることになりました」とほめたたえて、その母マリアにこの幼子がこれからどういうことになるのか、どういう方なのかということをお話ししました。また女預言者の一人アンナという人が、84歳のおばあさんですが結婚して7年間、夫と一緒に過ごして、その後夫が死んで、長い間やもめとしてずっと生きてきたわけです。当時やもめというのは今とは違って、「もしかしてあの人は神様にのろわれたのではないか。だからあのようなになるのだろう」と思われる、そういう時代なのです。だから生きることが面白くない、そういう人生をずっと長く生きてきました。神殿で断食をしながらお祈りをしながら、そのアンナという人もそこにいて幼子のイエス様を見て驚いて感謝を捧げて、そこで留まらないでエルサレムにいる多くの人にメシアを待っている人に、幼子イエス様のことを伝えて語っていたと書いてあります。これを通してシメオンのようにだいぶ年を取って、ここまで長生きしたのだからもういいのではないのかと思っていても死ぬことが許されませんでした。それでやっと幼子イエス様と出会って神の救いを見たということで、その人はもう死んでもいいということになったのです。つまり、人間的にはもうこれ以上生かされる理由があるだろうかと思うようなことがあっても、死ぬことが許されない限り、そこには理由があるわけです。なのでそれがわかったときにどうなるのかということを確認していきましょう。

1. 今まで生かされている理由がわかると、過去が生かされる。

1) シメオンとアンナが生かされている一つの理由

まず第一に、シメオンのように、またアンナのように、今まで自分が生かされている理由が何なのか、正確に聖書的にわかったときに、その人の過去が生かされることになります。今、申し上げましたように、シメオンとアンナが生かされている理由は、人間的に見ると生きることが面白くないと思われる人生でもあるし、もう充分生きてきたのではないのか、今体力もないままずっと生きるということも人に迷惑をかけるばかりだしといろいろなことが考えられるわけですが、でも生かされていました。生きていました。死ぬことが許されませんでした。その理由は一つなのです。キリストであるイエス様と出会うために生かされていたわけです。それでそのキリストであるイエス様と出会ったときに、やっと生かされている理由が全うされたんだね。だから死んでも構わないよ。安らかにこのしもべを主が召してくださいねと告白していたわけです。これが生かされている理由であり、唯一の理由なのです。シメオンとアンナだけではなくて、人間であれば、クリスチャンであれば生かされている理由はこの一本に絞らないといけません。そのために生かされていました。自分が振り返って考えて見たとき、なんで自分の人生にこういうことがあったんだろう。なんて恥ずかしいことがあったんだろう。なんでほかの人と違って私が生まれてきた家庭環境はこんなに違うんだろう。なんでこんなにつらい経験などしたのだろうといろいろな思いがあるかもしれません。それが心の傷になって恨みつらみなどがずっとその人をコントロールしているかもしれません。しかし、そこを変えないといけません。修行によってカウンセリングによってそこをどうにかするということは正解ではありません。なぜ私たちは嫌だと思ふようなことまで許されて生かされていたのでしょうか。人間的なレベルでは傷になるしかない、恨みになるしかないようなことが許されてまで、なぜこの世に生まれてきて死なないで生かされていたのでしょうか。皆さんは自分の人生を振り返ってどういうふうに答えを出しているのでしょうか。小さなレムナントはまだ生きてきたその時間が短いので、あまりそういうことを考えたくないというか、考えられないと思うかもしれませんが、いくら小さい

子どもでも自分なりに思いがあるわけです。なぜ私はこういう形で生まれてきたのか。ほかの人より芸能人のように才能ある者、格好良い人間として生まれてきたらなんとよかったんだろうというような思いがあるかもしれません。だから自分が生かされている理由、生きることに対して喜びをもって、希望をもって考えることができないのです。そういう状態で何が勉強ができるのでしょうか。何に積極的に取り組むことができるのでしょうか。自分自身が自分の人生が嫌なので。それはすべて悪魔サタンの偽りなのです。神を離れていた私たちのその心の中に付け込んで、特に脳細胞に入り込んで悪霊を送り込んで、私たちの考えを握りしめて常にそういう風に考えるように攻撃を仕掛けているのです。教会に通っていても同じなのです。皆さんは自分なりにこれが悪いから、あれがこうだからこう考えるしかない、と思うのでしょうかけれども、そこには悪霊が入り込んで皆さんの考えをコントロールしているということに気づかないといけません。だから、キリストの御名によって私の考えと思いと感情を思うがままに操っている汚れた霊どもは去れ、と宣言しないとはいけません。戦わないといけません。自分のでたらめなグジャグジャな考え、思いのままに引っ張られて振り回される人生を早く終わりにしないとはいけません。それは悪霊の働きなのです。自分がこんな人間だからではなくて。なぜ私は生かされているのか。今まで生かされていたのか。ちょっとあまり良い表現ではありませんが、同じ内容でしょうけれども、なぜ私は死なないでいるのかと。ある人は病気にかかってもう死にたいという思いもあるかもしれません。痛みというのはつらいです。でも、死にたいからといって死ねるわけでもないし。それでも死なないで生かされていることに対して答えが出ないとはいけません。人生良いことばかりであればなんと幸いです。けれども神様を離れている以上、人生はそんなに面白いものではありません。だから、皆さんが願ってもないいろいろなつらいこと、理不尽なことと巡り合ってここまで生きてきたのではないのでしょうか。なぜなのでしょう。キリストであるイエス様と出会うためなのです。それ以外に理由はありません。それほどキリストは絶対理由なのです。キリストでなければ絶対いけないことなのです。何がどうであれ、お金がどれほどあっても、腐るほどお金があったとしても、頭がパンクになるぐらい知識があふれあふれ出ていても、キリストがなければ希望はありません。キリストのためなのです。そこにその一本に集約しないとはいけません。

2) 過去の再解釈

①根本問題、霊的問題を知るきっかけ

そのときに自分の過去が再解釈されます。さまざまな人生というのは、自分自身に実は気づいてもないし、どうにもならない根本の問題、霊的な問題があるものだとことを知るためのきっかけだったのです。皆さんが心の傷にして抱えていたその問題が問題でなくて、その裏に深く入り込んでいる霊的な問題、根本問題が人間にあるし、私にあるんだということを知ってもらうためのきっかけだったのです。

②キリストに会うための過程

なぜそれを知らないといけないかと言いますと、だからこそキリストでなければ絶対ダメなんだということに心から気づいて、そのキリストを求めてキリストと会うための過程、プロセスだったわけです。離婚された。親に捨てられた。誰かに虐待された。いじめられた。病気にかかっていた。人に言えないとんでもないミスをおかしてしまった。いつも劣等感ばかりだった。そのすべてのことが本当の問題、霊的問題、根本問題に気づいてもらうための神様の配慮であり、だからこそキリストと会うためのプロセスだったのです。言葉を簡単に申し上げると、神様はキリストが絶対なので、私たちがキリストと会うことのために何ごとでもなさる方なのです。どういうことでも私たちの理解をはるかに超えて許される方なのです。それで今まで生かされていた理由がキリストに出会うためだった、この一本に絞られたときに過去がこのように解釈されるようになります。

3) 最高の宝で最高の理由、キリスト

つまり、私たちにとって最高の宝はキリストなのです。皆さんがキリストを信じるかもしれませんが、問題はそのキリスト、イエス様が最高の宝ではないのです。あまりにも宝が多いのです。子どもも宝。旦那さんも奥さんも宝。お金も宝。学歴も宝。自分の才能も宝。ひどい場合は、何かの思想やイデオロギーも宝になっていたりします。そういったものが私の人生にとって宝になるようなものは一切ございません。私の人生の中で宝はキリストだけなのです。キリストのほかに悪魔のしわざを打ち壊すことができるものは存在しません。キリストのほかに私たちを地獄から引き上げて救われる力はどこにもありません。キリ

ストのほかにはわざわざ罪をきよめることができる力はどこにもありません。キリストの他に神の御怒りを取り除く道はどこにもありません。キリストが最高の宝であり、だからこそキリストが理由なのです。キリストが、皆さんの人生を編集しないといけません。このキリスト一本に絞って、このキリストのためにあったものとしてすべてを再解釈し編集しないといけません。

4) 過去を感謝一本に

そうなったときに、どのような過去であってもその過去を感謝一本にまとめることができます。過去に対して感謝一本にまとめたそのときに、本気でそのようにまとめたときに、初めて暗闇のやぐらが砕かれて、皆さんの心にある心の傷が癒されて、自分の知らないうちに縛られていた何かから解放されることとなります。人に対しての恨みも結局、縛られていることなのです。その縛られているところに悪霊がつけ込んでいくわけですね。心の傷も悪霊によるものなのです。正しくわかってキリストの御名で戦いましょう。キリスト一本に絞ったときに、どのような過去も感謝に変わります。私は自分の人生で一番コンプレックスだったことがありました。それがこのキリスト一本に絞ったときに感謝に変わりました。なるほど、もし母親が長生きしていたら、私はお坊さんになったかもしれません。もちろん神のご計画の上でどんな手段を通してでもなさったでしょうけれども、私の方から考えたときに、私にとって一番不幸なこと、一番コンプレックスだったことが、私を今の私にキリストと出会わせるための神様の導きだったということに気づいたときに、キリスト一本に絞らないとそういう解釈ができません。だから感謝が生まれえないのです。皆さんの過去どのような内容であっても全部が感謝に変わらないといけません。霊的な戦いなのです。これが今まで生かされていた理由です。これ以上、自分の今までの人生に対して疑問符をもってやもやすことを終わりにしましょう。そんなことはありません。そしてアンナのように、二番目です。

2. これから生きる理由がわかると、未来が生かされる。

これが明確に答えがわかったときに、いつまで生きるかわかりませんが、これから私が生きる理由がわかるようになり、そのときに未来が、そして今が生かされることとなります。これから私が生きる理由、これから生かされていく理由。

1) 38

38節をもう一回読みます。「ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝をささげ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った」。これがこれから生かされる、生きることが許される理由です。この一本に絞らないといけません。

2) この世が見えてきて

私たちがなぜ今まで生かされていたのだろうか。なるほど、キリストのために。キリストは最高の宝。絶対宝ということ分かって過去のすべてに感謝を捧げてまとめたときに、暗闇が砕かれることで初めて私がこれから生きていくべきこの世というところがどのようなところなのかが見えてくるようになります。

①滅びる世

皆さんの目にはこの世がどのように映るのでしょうか。いま映って見える額面通りに考えてはいけません。特にレムナントは時間があれば調べてみてください。今までの歴史の中で大国、先進国と呼ばれていた国が、いままでずっと長続きしているのかどうか、そういう国がどこにあるのか調べてみてください。私たちは日本の国は永遠に先進国で、アメリカは永遠に覇権を握っている国だろうと思うかもしれませんが、しかし、歴史の中でそういうことは一度もありませんでした。英国は日が沈まない国と言われていたのがいまはそこまで言われているのでしょうか。ローマは一日でできたものではないと。世界を支配していたローマがいまは「ローマって何?」。バビロニアもエジプトもそうなのです。それが歴史の証拠なのです。なのに今盛んでいるから、いま大国だから、いま発展しているから、いま先進国だから、だから永遠にそうだろうと思ったり、羨ましいと思ったりということはおかしくないのでしょうか。少なくともクリスチャンの私たちはそういう見方をしてはいけません。この国は滅びる国なんだ。そしてそのように大国ですごい国だったのに長続きしないでみな滅びていきました。その理由、裏に何があったのかを必ず

研究してみてください。必ず偶像崇拜が挟んでいて。プラス戦争を起こしていたわけです。偶像崇拜と戦争は直結してるものなのです。ならば今日日本の国を見て、世界でわあわあと騒いでいるさまざまな大きな声を出している国々を見てどう思うべきでしょうか。この世は必ず滅びることが決まっているところなのです。滅びるのが見えてくるのです。つまり言葉を変えますと、自分ではこうすればああすればさらに発展して、こういう世界になり、ああいう世界になりといろいろ夢を語ってるかもしれませんが、私たちの目にはなるほど滅びることが決まっている国、キリストでなければ絶対だめなわざわいのところなんだと、それが見えてこないといけません。イエス様がオリーブ山で40日の間、弟子たちに語った内容の一つがそれなのです。そのときローマが世界最強の国でした。このローマはこのようにして滅びるよ。エルサレム、ユダヤ人が自分の宗教などに誇りを持っていたのですが、AD70年にエルサレムの神殿は壊れて、イスラエルは全世界で流浪の民になるよということをおっしゃったわけです。未来のことをおっしゃいました。私達もキリストの目で未来を見ないといけません。特にレムナントは2030-2080の時代を生きるために今備えられている者なのです。未来はどうなるのでしょうか。コマーシャル見ると未来には車が空を飛ぶ。もちろんそうなるかもしれませんが。しかし、霊的な目で見ると滅びることになっているのです。それが見えてきて、キリストでないといけません。

②福音運動をなさる神様

なので、未来に何がメインテーマになるかというところ、そこでキリストでないといけませんので神様は福音の運動をなさるんだと。それが未来なのです。福音の運動をなさる神様が見えてきて、しかも感謝のことに滅びるこの世、わざわいによってダメになるこの世、そのわざわいを止めて、いのちを吹き込むために神様が福音の運動をなさる計画を持っていらっしやいます。

③自分(教会)を通してなさる神様

それをキリストを先に信じている自分を通して、教会を通してなさる神様が見えてくるのです。

④御座の力でなさる神様

そして、私たちに何ができるのでしょうかと常々言うから、聖霊が臨まれると、力を得て、つまり御座の力で私たち、教会を用いて福音の運動を行ない、このようにいのちの光を吹き込むことをなさる神様が見えてくるようになります。

⑤永遠の作品にされる神様

なので、それがわかって今、私たちがいる現場、持っているもので、それに合わせて福音の運動に携わることが永遠に残る作品にしてくださる神様なのです。私たちが見たときには小さなことでしょうけれども、それが絶対なのです。これが地球のテーマなのです。なので、それが永遠の作品になるようにされる神様が見えてくるのです。今、申し上げました内容がCVDIPなのです。それが見えてくるのです。このために私たちはこれから生きるわけです。この未来に向かって生きるわけです。なので未来がどうなるんだろうかと不安もあるし、いろんな噂が飛び交っている中で未来のことを自分勝手にいろいろ考えて否定的になる場合も肯定的になる場合もいろいろありますが、どちらも正解ではありません。未来は今申し上げましたようにCVDIPに入っているのです。そのような未来が待っているのです。未来が生かされるわけです。そのために私たちは召されて生きるわけです。

3) 今日の優先順位が変わる

なので、それがわかったときに今現在、今日が生かされます。今日の優先順位が変わります。未来を先に見て、地図を見ているから。

①伝道のための今日

今日の優先順位は何かというと、今日の一日の具体的に伝道するかしないか関係なく、伝道のための今日なのです。皆さんのすべてのスケジュールが勉強が出会いが何かしらの出来事が事柄が、すべて伝道のためのものなのです。それが優先順位です。それが伝道のためなので、伝道のためにその目でそれを見た時に日曜日の講壇のメッセージが道となり答えとなります。怖がらないで不信仰を捨てて自分のレベルで勝

手にこうだあだと評価しないで、私の今日の一日は、すべてのスケジュールは、伝道のために許されているんだ。この韓国から知人の牧師先生方が来てゴルフをやりました。彼らと会うことも伝道のためだと私は思っています。伝道のためのフォーラムがあるでしょう。ホテルに泊まってまた運動もする。そこで話合う機会はあまりないでしょうけれども、フロントの人と顔を合わせる。ゴルフ場の従業員と顔を合わせる。それも伝道のためだと思ったのでトラクトを用意しました。私が直接渡す機会はあまりなかったのですが、あるオーストラリアの宣教師が日本語を知らないのに、英語で「あなた英語、喋れますか？」とか声をかけてアプリで英語喋って日本が聞こえるようにして話しました。伝道したわけではありませんが少しそういう風に距離を縮めるようになりました。でも、これが限界でどうしようかと思っていたときに「トラクトあるよ。これを渡したら」と言ったらそれを渡したみたいです。もちろんそこで快く受け入れたわけではありませんが、彼女が封筒からそれを出して見た途端に「あー、キリスト」と言ったみたいです。だからまったく知らない人でもないかなと思ったのですが。今言いたいのは、そこで何がどうだったという意味ではなく、今日が伝道のための日なんだと思うことは優先順位なのです。

②礼拝優先

だからこそ、伝道のために礼拝を神様が許されて、礼拝は伝道のために必要な御座の祝福が現れる御座のキャンプだと言われているのです。だから礼拝に臨む姿勢が変わります。礼拝を優先することになります。なぜでしょうか。私たちの力ではできないから。礼拝の時に聖霊が臨まれると、力を得てということが成就されることを信じて。これが今日生きる理由になります。今日が生かされます。

③みことばに導かれる祈り

礼拝を優先して礼拝を通して語られるみことばを聞いて、先ほど申し上げましたように、そのみことばに導かれる祈りを捧げることになります。みことばから今日の伝道のための答え、道というものが示されることになり、またそれが何なのかということに黙想することになり、それがわかったときにそれを祈るようになるでしょう。慣れていないから難しいでしょうけれども、実際内容は難しいものではありません。なぜ難しいかといいますと、今日の優先順位が伝道になっていないので、みことばと礼拝と何もかもがみ合わないのです。私にそういう力があるかどうか…。皆さんの力とは関係ありません。信じればいいのです。邪魔は一つだけ、不信仰だけです。長い間、3、6、11に慣れている不信仰だけです。だからこれから生きる理由、CVDIPがわかったときに、未来が生かされると同時に今日が生かされます。

4) 仕事(業)、出会い、出来事の価値発見

となると、そのためにその力と祝福をもって、皆さんの仕事、学業、そのすべて、また皆さん出会い、さまざまな出来事などに価値を見出すことになります。そのすべてが価値あるもの、意味あるものなのです。だからクリスチャンなのに仕事をほかの人が見たときにデタラメにやるということは、その人の性格もあるでしょうけれどもクリスチャンとしては望ましくありません。クリスチャンだから真面目にやりましょうという倫理の話ではありません。私たちの優先順位がこのように変わって、未来が生かされて、今日が生かされるのです。最高に価値ある今日なのです。生かされたのでそのための仕事なので仕事が愛おしくなって最善を尽くして頑張っていくわけです。ほかの人の上に立つために頑張るのではなくて。それがクリスチャンの仕事観です。いろいろな出会いがあるでしょうが、私たちの頭の中では福音宣教のための出会い、それ常にあるわけです。それから何か起きた時に、良いことと悪いこといろいろあるでしょうけれども、それを見る解釈の仕方が変わります。伝道のためになぜこういうことがあったのだろう。総理大臣になりました。伝道のためになぜ総理大臣になったのだろう。奴隷で売られました。濡れ衣を着せられました。全く同じなのです。伝道のためになぜ濡れ衣を着せられたのかと超越していくようになります。揺れることはありません。未信者が見たときに魅力あふれる人間になるのです。未信者はこれがあればこれに、良いことがあれば認め、悪いことがあれば疑問に思う、これが普通なのです。しかしクリスチャンはそうでないから。なぜでしょうか。普通に傷のようなことも伝道のために許されることだから。上がることも伝道のために許されるので、そんなに上がる必要もありません。このように今日が全部生かされます。勉強も仕事も全部生かされます。これほどなぜ生かされているのかに対しての聖書的な答えは大切なものなのです。

なので、皆さんぜひⅡコリント4:7を告白しましょう。「私たちは、この宝を土の器の中に入れていません」。イエス・キリストがパウロにとっては本当に宝でした。だから土の器のようなうわべなどは乗り越えられるわけです。ピリピ3:8にも「私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただ」と思うくらいキリスト最高なのです。この言葉を黙想して自分の告白にしましょう。キリストが自分の最高の価値、最高の理由としてまとめられますように。それで、そのキリスト中心に自分の人生を再解釈して編集しましょう。本当に再解釈して編集すると、今申し上げましたように自分の人生はCVDIPのために、つまりミッションのために許されてこれから生きる人生だという答えが出るのです。それが正しい編集です。そこまでちゃんと編集するようにしましょう。何ものにも引っかからないで。過去の何かがいまだに後ろめたさ、心残りみたいなものがどこかにあって脳細胞をとらえていると、ミッションなどは見えてこないのです。ずっと何かしら逃げていかないといけないし、解決していかないといけないし、ずっとその呪縛の中にいるわけです。キリストにあって。キリストに会うためにあったので、そうならばそのすべての目的は達成されました。終わりなのです。それで未来に向かっていきます。

そういう意味で、いま絶対不可能な現場、宣教師の墓と言われている日本の国において、聖書的伝道運動によって可能なんだということを証明すること、これがミッションです。初代教会にそれが証明されていたので。なぜ日本は世界的に宣教師が一番多く入っていた国なのに世界でキリスト教人口が一番少ないのか。なぜそうなったのか。もちろん暗闇の働きであり、偶像の根深いいろんな力、いろんなものがあるのは間違いありません。しかし、クリスチャンの私たちは、なるほど聖書的伝道運動が一度もなかった。だからその聖書的な伝道運動を正しく行うことで、そのほかには希望がないことを証明してもらうためにそれがあったものなんだ。つまり、聖書的伝道運動のために日本が不可能な地域になっているわけです。なんと感謝でしょうか。初代教会も不可能な状況でした。全く同じ状況なのでありがたくないでしょうか。否定的に思わないでください。だからこそ聖書的伝道運動一本に祈りを集めないといけません。そのことによって神様は日本が福音化されることはもちろんなんですが、237、5000未伝道種族のどこの民族、どこの国に行っても日本でできたんだから言い訳できる国はありません。ありえません。だからその証人として日本の国を宣教の国として用いられる計画を持っていらっしゃるのではないか。そのために今まで世界で一番ダメな宣教の国になっているのです。良かったのではないのでしょうか。それをミッション、契約として握りましょう。それを握ってどこから始めるかという、皆さんの現場において、ほかの人にもこの私に届いた福音が必要なことに目覚めて、自分の現場で伝道の門が開かれることを祈りましょう。今申し上げました内容全部合わせて、現場で伝道の門が開けるように。つまり、聖書的伝道運動がここで実際に証明されますよう祈ってください。そして、その祈りとともに礼拝のたびにその答えと力を得る礼拝になるように。礼拝に対しての心構えを変えてその祝福の主人公になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございますありがとうございます。今日も神様の導きによってともに礼拝を捧げ、神様が何を望んでいらっしゃるのか、私たちにどのような祝福が与えられているのかを確認することができてありがとうございます。みなぎキリスト一本に福音宣教一本に生かされている理由を絞って人生を編集して、そして神のミッションを握って自分の現場でそれが証明されることを祈り始めるようにひとりひとりを励ましてください。それを邪魔するサタンのやぐらが、不信仰のやぐらが、キリストの御名によって碎かれることをお祈りいたします。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。